

# 平成23年度 国土技術研究会の 開催について 〈結果報告〉

国土交通省大臣官房技術調査課

## 1 はじめに

国土技術研究会は、国土交通省の前身の一つである旧建設省が内務省であった昭和22年から「直轄技術研究会」として始まっており、平成13年度より「国土技術研究会」と名称変更し、今回で65回目を迎えました。

本研究会は、社会資本整備における中長期的または緊急的に取り組むべき技術的な課題に対し、おのおのが携わる事業の現場経験を通じた創意工夫や技術開発、設計・施工・維持管理時の改良改善等の実施状況について、技術発表やディスカッションを行うことにより、技術者の技術力の向上・研鑽を図ることを目的としています。

主な発表者は、各地方整備局などの若手技術者（各地方整備局等において開催される技術研究発表会で優秀な成績を収めた者の中から推薦された技術者）、試験研究機関の研究者、国土交通本省職員および国土交通省関係機関の技術者です。また、聴講者は、学会関係者や民間企業を含めた一般の技術者等です。

## 2 平成23年度 国土技術研究会の概要

平成23年度の国土技術研究会は10月17日（月）・18日（火）の2日間にわたって開催され、

約800人の参加がありました。開催に先立つ宿利正史国土交通事務次官からの主催者挨拶においては、未曾有の大震災に直面した日本におけるハード・ソフト両面での社会資本整備の重要性が伝えられたほか、技術力や行政力の向上を図り、より良い国土形成・保全に繋げていくことの重要性が伝えられました（写真—1、2）。



写真—1 宿利事務次官挨拶



写真—2 発表風景

表—1 発表課題一覧

① 自由課題（一般部門）

★印は、建設技術研究開発助成制度による研究課題。

時間	安全・安心	くらし・活力	環境
11:20~11:40	岡山三川の下流域における基盤構造から見た地震災害 中国地方整備局岡山河川事務所調査設計課 岡本 功	「恩納村歴史・風景散策路」での多言語歩行者系標識による有効性検証実験 内閣府沖縄総合事務局開発建設部道路建設課 相川 浩二	伊勢湾再生への取り組み～伊勢湾シミュレーターの開発について～ 中部地方整備局名古屋港湾空港技術調査事務所技術開発課 内藤 了二
11:40~12:00	河川堤防における『対空標示』の試みとその活用について 東北地方整備局仙台河川国道事務所角田出張所 及川 加奈	視覚障害者誘導ブロックについて 関東地方整備局東京国道事務所 計画課 碓谷 望	港湾整備事業における二酸化炭素排出量の推計について 国土技術政策総合研究所港湾研究部港湾施工システム課 林 友弥
12:00~13:00	休 憩		
13:00~13:20	原石山における電気探査比抵抗トモグラフィ探査の適用と評価 独立行政法人 水資源機構総合技術センター 松尾 達也	北部国道事務所管内における雑草対策の考え方について 内閣府沖縄総合事務局北部国道事務所管理第二課 川間 重一	地域活性化を支援する円山川自然再生の効果検証～コウノトリの採餌環境に配慮した湿地整備～ 近畿地方整備局道路部道路管理課 神谷 毅
13:20~13:40	河川ポンプ設備の状態監視技術に関する調査 独立行政法人土木研究所技術推進本部先端技術チーム 上野 仁士	道路標識柱に付与すべき性能を評価する手法に関する研究 国土技術政策総合研究所道路研究部道路構造物管理研究室 野村 文彦	★光ファイバセンシングによる広域社会基盤施設の高精度変位監視システムの開発 飛鳥建設株式会社建設事業本部企画統括部課長 熊谷 幸樹
13:40~14:00	大規模災害に対応するサイフォン排水技術の開発—河道閉塞の緊急排水対策— 関東地方整備局関東技術事務所施工調査課 武田 直人	滑走路および誘導路舗装の耐久性向上に関する研究 独立行政法人港湾空港技術研究所構造研究領域空港舗装研究チーム 前川 亮太	特定外来生物（オオクチバス）の捕獲試験について 東北地方整備局北上川ダム統合管理事務所調査課 阿部 利枝
14:00~14:10	休 憩		
14:10~14:30	災害後の建築物の機能維持・早期回復を目指した構造性能評価システムの開発 独立行政法人建築研究所国際地震工学センター 森田 高市	明石海峡大橋関連区間の渋滞特性の分析と予測手法に関する一考察 本州四国連絡高速道路株式会社神戸管理センター計画課 田村 正	十勝川流域における河畔林管理手法について 北海道開発局帯広開発建設部治水課 河合 崇
14:30~14:50	大規模建築物の給排水設備等における防災対策技術 独立行政法人建築研究所環境研究グループ 山海 敏弘	自転車利用者の行動特性分析における新たな手法について 北海道開発局札幌開発建設部都市圏道路計画課 堀田 美和子	★高品質盛土を保証する施工管理技術に関する研究 東京理科大学理工学部土木工学科教授 龍岡 文夫
14:50~15:10	東日本大震災による宅地盛土被害と安全性評価との関連 国土地理院地理地殻活動研究センター地理情報解析研究室 中埜 貴元	長岡まつり花火大会における官民一体となった渋滞対策の取り組みについて 北陸地方整備局長岡国道事務所調査課 山口 拓郎	景観に配慮した施工時の留意点について 九州地方整備局川内川河川事務所菱刈出張所 的場 孝文
15:10~15:20	休 憩		
15:20~15:40	国道33号の災害による2度にわたる全面通行止めに対する応急復旧について 四国地方整備局土佐国道事務所佐川国道維持出張所 長楽 英晴	厚い軟弱地盤上における回転圧入鋼管杭の施工管理 中部地方整備局沼津河川国道事務所工務第三課 高橋 治	瀬切れが及ぼす河川環境への影響（中間報告） 四国地方整備局松山河川国道事務所調査第一課 吉村 匡
15:40~16:00	道路防災カルテの評価の妥当性について 中国地方整備局中国技術事務所防災・技術課 石田 高嗣	★三次元サブミリメートル変位計測による遠隔観測型崖崩れ前兆検出システムの開発 和歌山大学システム工学部光メカトロニクス学科准教授 藤垣 元治	流出油の漂流予測に関する研究開発 独立行政法人港湾空港技術研究所沿岸環境研究領域混相流体研究チーム 松崎 義孝
16:00~16:20	東日本大震災への取組と近畿地方整備局が抱える課題 近畿地方整備局企画部防災課 中井 克幸	真空環流式路面清掃車による清掃作業の効率化について 九州地方整備局九州技術事務所施工調査課 平川 良一	景観機能からみた積雪寒冷地の舗装に関する一考察 独立行政法人土木研究所寒地土木研究所地域景観ユニット 福島 秀哉
16:20~16:30	休 憩		
16:30~16:50	東海・東南海・南海地震発生時に北陸管内港湾が担うべき役割と課題について—東日本大震災を事例として— 北陸地方整備局港湾空港部港湾物流企画室 河野 真典	★メカニカル亀裂ストッパーを用いた鋼橋の緊急・応急補修技術の開発 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻教授 杉浦 邦征	★構造物現況形状データと設計データを用いた品質確保と施工支援に関する技術の開発 東急建設株式会社技術研究所メカトログループ主席研究員 遠藤 健
16:50~17:10	既存岸壁の耐震強化に関する新しい構造形式の提案 関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所 西川 文博	堤防詳細点検の精度向上に向けた新たな評価手法の提案 北陸地方整備局富山河川国道事務所調査第一課 立野 祐輔	利根川河口堰緩傾斜魚道の整備と効果について 関東地方整備局利根川下流河川事務所調査課 高口 強

## ② 自由課題（イノベーション部門）

★印は、建設技術研究開発助成制度による研究課題。

時間	イノベーション①	イノベーション②
11:20~11:40	撫養港海岸保全施設整備事業における砂圧入式静的締固め工法の適用 四国地方整備局小松島港湾・空港整備事務所 真鍋 尊年	米代川災害復旧事業マネジメントについて 東北地方整備局能代河川国道事務所工務第一課 五十嵐 悟
11:40~12:00	★構造物の表層強度分布測定装置および含浸強化剤の開発研究 三重大学大学院工学研究科建築学専攻教授 畑中 重光	地上デジタル放送のデータ放送を利用した防災情報の提供について 和歌山県県土整備部河川・下水道局河川課 和歌山県環境生活部県民生活課NPO・県民活動推進室 栗 将倫, 田代 匡生
12:00~13:00	休	憩
13:00~13:20	～平成の大改修～「浜名大橋」橋梁補強について 中部地方整備局浜松河川国道事務所道路管理第二課 辻 英雄	社会資本整備を対象としたカーボンフットプリント手法の開発、及び公共事業への導入によるCO <sub>2</sub> 排出量の削減の可能性について 国土技術政策総合研究所環境研究部道路環境研究室 神田 太朗
13:20~13:40	★建設ICTにおけるImage Based Communication Tool (情報共有プラットフォーム)の研究開発 アジア航測株式会社社会基盤システム開発センター長 小川 紀一朗	GPS自動計測システムによるフィルダム安全管理の高度化について 中国地方整備局苫田ダム管理所 大西 雄士
13:40~14:00	性能管理型舗装工事の試行について 東北地方整備局酒田河川国道事務所工務第二課 菅原 達也	省力型木製残存型砕工法の開発と施工について 四国地方整備局四国山地砂防事務所重信川砂防出張所 向山 正純
14:00~14:10	休	憩
14:10~14:30	中間堰の堆砂抑制対策について 九州地方整備局遠賀川河川事務所管理課 田原 秀樹	ドライブレコーダーデータを活用した生活道路の交通安全対策 国土技術政策総合研究所道路研究部道路空間高度化研究室 小塚 清
14:30~14:50	億首ダム(台形CSGダム)本体工事の施工報告 内閣府沖縄総合事務局北部ダム事務所億首出張所 與那嶺 盛明	★地理空間情報の流通プラットフォーム技術開発による建設生産プロセスの効率化 東京大学空間情報科学研究センター教授 柴崎 亮介
14:50~15:10	鹿嶋海岸粗粒材養浜工～砂浜の安定化に向けた新たな取り組み～ 茨城県土木部河川課 日向野 崇	冬期路面管理の効率性向上に資する意思決定支援システムの開発について 独立行政法人土木研究所寒地土木研究所寒地交通チーム 徳永 ロベルト
15:10~15:20	休	憩
15:20~15:40	浮遊砂が卓越する海域における漂砂特性と対策の検討について 北海道開発局留萌開発建設部留萌港湾事務所第2工務課 海津 博行	無線センサデバイスを活用した道路管理手法について 近畿地方整備局和歌山河川国道事務所工務第二課 小野 武
15:40~16:00	★土砂災害の2次被害を防止するための安価で迅速に設置できる監視装置の開発 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻准教授 内村 太郎	★パンデミック発生に伴う流域水質管理に関する研究 京都大学大学院工学研究科付属流域圏総合環境質研究センター教授 田中 宏明
16:00~16:20	新潟空港滑走路液状化対策工事について 北陸地方整備局新潟港湾・空港整備事務所第三建設管理官室 木原 寿明	Mobile Mapping Systemによる津波浸水高の計測 国土地理院地理地殻活動研究センター地理情報解析研究室 岡谷 隆基

③ アカウンタビリティ部門（パネルディスカッション）

時間	アカウンタビリティ部門	
9:20~10:10	個別発表①	
	一般国道241号における協働型インフラマネジメントの取組について	北海道開発局釧路開発建設部道路計画課 豊島 真生
	出前講座（不動産取引の基礎知識）の取組について	近畿地方整備局建設部建設産業課 堀田 徹也
	原宿交差点立体化開通時における戦略的広報について	関東地方整備局横浜国道事務所調査課 末廣 政信
	震災経験を未来につなぐ一策	北陸地方整備局湯沢砂防事務所流域対策課 木村 吉憲
9:20~10:10	高知西南部地域活性化懇談会	四国地方整備局中筋川総合開発工事事務所調査・品質確保課 森長 沙耶
10:10~10:30	グループディスカッション①	
10:30~10:45	休 憩	
10:45~11:25	個別発表②	
	激特事業における多自然川づくり	中部地方整備局天竜川上流河川事務所工務課 澤田 宗也
	太田川祇園・大芝水門改築方策検討プロセスについて	中国地方整備局太田川河川事務所調査設計第一課 三國谷 隆伸
	地域との合意形成で進めた川内川激特事業	九州地方整備局川内川河川事務所調査課 平岡 博志
10:45~11:25	竹富南航路の整備に向けた住民合意形成への取組み	内閣府沖縄総合事務局石垣港湾事務所工務課 金城 健吾
11:25~11:45	グループディスカッション②	

④ 指定課題（2日目）

時間	指定課題①	指定課題②	指定課題③
9:40~10:25	大規模土砂災害に対する危機管理手法の高度化に向けた研究 水管理・国土保全局砂防部砂防計画課地震・火山砂防室課長補佐 越智 英人 独立行政法人土木研究所土砂管理研究グループ火山・土石流チーム 上席研究員 石塚 忠範	レーザプロファイラ等を用いた3次元CADデータの作成及び活用に関する研究～東日本大震災の復興支援及び大規模災害への備え～ 国土技術政策総合研究所高度情報化研究センター情報研究官 平城 正隆	官庁施設の運用エネルギーのマクロ分析に関する研究 大臣官房官庁営繕部設備・環境課 営繕環境対策室課長補佐 未兼 徹也
10:25~10:35	休 憩		
10:35~11:20	大規模災害における災害対策用機械を活用した応急復旧支援に関する研究 総合政策局公共事業企画調整課施工安全企画室課長補佐 森川 博邦	水災害の監視・予測の高度化に関する研究 水管理・国土保全局河川計画課河川情報企画室課長補佐 木村 周二 国土技術政策総合研究所危機管理技術研究センター水災害研究室室長 伊藤 弘之	降雪時における道路管理 道路局国道・防災課道路防災対策室企画専門官 真田 晃宏
11:20~11:30	休 憩		
11:30~12:15	大規模災害に対する電気通信施設の高度化、信頼性向上に関する研究 大臣官房技術調査課電気通信室課長補佐 松浦 孝昌 国土技術政策総合研究所高度情報化研究センター情報研究官 平城 正隆	/	

⑤ ポスターセッション部門

NO	課 題 名	所 属	氏 名
1	データ放送を利用した防災情報の提供について	和歌山県県土整備部河川・下水道局河川課	栗 将倫
2	気球空撮システムの活用について	中国地方整備局広島港湾空港技術調査事務所技術開発課	北浦 直子
3	公衆の通信網が被災した状況下でTEC-FORCE活動を支援するための新たな情報通信手段について	九州地方整備局企画部情報通信技術課	松尾 健二
4	ハイドロフォンによる掃流砂量の連続観測	国土技術政策総合研究所危機管理技術研究センター砂防研究室	鈴木 拓郎
5	三大都市圏の人工地形情報の更新	国土地理院応用地理部防災地理課	倉田 憲
6	超音波式三次元水中映像取得システムの開発	独立行政法人港湾空港技術研究所計測システム研究チーム	松本 さゆり
7	汎用性を高めた振動検知式土石流センサーの開発について	独立行政法人土木研究所土砂管理研究グループ火山・土石流チーム	武澤 永純
8	海洋文化館の映像ホールリニューアルについて	沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所工務課	大城 幸朗
9	集合住宅における遮音規定の合理化に向けた取り組み	独立行政法人建築研究所環境研究グループ	平光 厚雄
10	磁気図2010.0年値の作成	国土地理院測地部物理測地課	後藤 勝広
11	耐震鋼材を使用した既設橋梁の補修方法について	東北地方整備局道路部道路管理課	遠藤 徹
12	新潟国道事務所中長期計画策定について～技術力向上の取り組み～	北陸地方整備局新潟国道事務所計画課	保坂 桃子
13	空港舗装巡回点検等支援システムの紹介	国土技術政策総合研究所空港研究部空港施工システム室	佐粧 智之
14	既存大規模木造建築物の耐震補強技術の開発	独立行政法人建築研究所構造研究グループ	荒木 康弘
15	ロータリ除雪車を通年活用するアタッチメント式路面清掃装置の開発	独立行政法人土木研究所寒地土木研究所寒地機械技術チーム	中村 隆一
16	建設工事における「循環型社会」「低炭素型社会」形成に向けた取り組み～「資源バンク」「環境家計簿」～	北海道開発局事業振興部技術管理課	石谷 直也
17	地域活性化を支援する円山川自然再生～コウノトリの採餌環境に配慮した湿地整備～	近畿地方整備局豊岡河川国道事務所調査第一課	福嶋 彩
18	A-JUMP（日本版次世代MBR技術展開プロジェクト）の実施	国土技術政策総合研究所下水道研究部下水道処理研究室	西村 峻介
19	水素を活用する低炭素社会への提言	国土技術政策総合研究所建築研究部環境・設備基準研究室	足永 靖信

⑥ 震災対応特別課題—東日本大震災における対応状況と今後の国づくりに関する取り組みについて—

パネルディスカッション

平成23年3月11日の東日本大震災における国土交通省の対応状況について報告し、震災を踏まえた今後の国土づくりに関する取り組みについて意見交換を行う。

コーディネーター

大臣官房技術審議官 深澤 淳志

パネリスト

東北地方整備局企画部長 川嶋 直樹	【課題名】：東北地方整備局における東日本大震災の対応について
関東地方整備局企画部長 金尾 健司	【課題名】：関東地方整備局管内における被災及び対応状況
水管理・国土保全局河川計画課長 池内 幸司	【課題名】：東日本大震災による被災状況、復旧・復興と津波防災まちづくり
道路局国道・防災課長 三浦 真紀	【課題名】：東日本大震災による道路の被災状況と今後の道路防災対策
港湾局技術企画課技術監理室長 渡邊 和重	【課題名】：港湾における総合的な津波対策について
航空局安全部空港安全・保全対策課空港安全国際調整官 池田 哲郎	【課題名】：仙台空港の被害と応急復旧について
国土地理院企画部長 稲葉 和雄	【課題名】：東日本大震災と地理空間情報

発表課題は、指定課題、自由課題5部門（安全・安心、暮らし・活力、環境、イノベーション、アカウンタビリティ部門）、ポスターセッション部門および建設技術研究開発助成成果発表があり、計96課題の発表が行われました。また、今年3月11日に起こった東日本大震災を受け、「震災対応特別課題」として、国土交通省の対応状況の報告を行い、震災経験を踏まえた今後の国土づくりに関する取り組みの意見交換（パネルディスカッション）が行われました（表-1）。

指定課題は、国土交通省が所管する住宅・社会資本整備に関する技術の重要な課題について本省が指定する2～3カ年にわたって実施される研究課題です。本省、試験研究機関が中心となって行うものであり、発表は主にパネルディスカッション形式で7課題が発表されました（写真-3）。



写真-3 指定課題

自由課題は、住宅・社会資本の整備にあたって、全国的に発表する価値のある研究テーマとして、安全・安心、暮らし・活力、環境、イノベーション、アカウンタビリティの5部門について、地方整備局、北海道開発局、地方航空局、機構、地方公共団体等の技術者が行う個人発表です。各地方整備局等で実施された技術研究発表会から選出された60課題が発表されました（写真-4）。

ポスターセッション部門では、これまでに取り組んできた研究内容のポスターやパソコン等を掲示または設置し、実物や模型展示などで紹介するブースを設け、19課題が発表されました（写真-5）。

建設技術研究開発助成成果発表は、建設技術研



写真-4 アカウンタビリティ

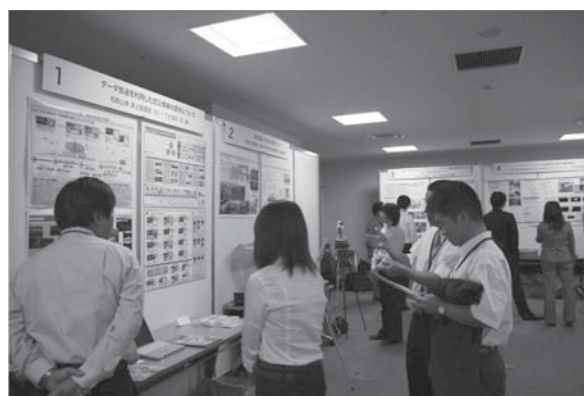


写真-5 ポスターセッション

究開発助成制度（急速に変化する社会経済情勢に的確かつ早急に対応するため、建設分野の技術だけではなく、建設以外の他分野を含めた連携を進め、広範な学際領域における建設技術革新を促進し、それらの成果を公共事業等で活用することを目的に、大学の研究機関等の研究者等に研究開発費を補助する制度）で実施された研究開発課題のうち、平成22年度に終了した実用化および実用化のめどのある10課題が発表されました。

震災対応特別課題では、「東日本大震災における対応状況と今後の国づくりに関する取り組みについて」と題し、大臣官房技術審議官 深澤淳志をコーディネーターとして、東北地方整備局企画部長 川嶋直樹、関東地方整備局企画部長 金尾健司、航空局安全部空港安全・保全対策課空港安全国際調整官 池田哲郎、国土地理院企画部長 稲葉和雄、水管理・国土保全局河川計画課長 池内幸司、道路局国道・防災課長 三浦真紀、港湾局技術企画課技術監理室長 渡邊和重（発表順）の7名のパネリストによるパネルディスカッションが

行われました。

パネリストの発表および意見交換を踏まえて、結びの総括としてコーディネーターより「防災インフラについて、粘り強い構造とするとともにソフト施策と組み合わせ、人の命を守るために総合的に取り組むこと」「東海地震等に備えた交通ネットワークの整備にあたっては、防災の観点からの優先度の再認識と早期整備」「災害に強い国づくりにあたっては、地域の実情に合ったまちづくりとして、地域の主体的な取り組みを中心とし、



写真—6 震災対応特別課題



写真—7 パネリスト



写真—8 パネリスト

国として必要な復興支援施策を提示していくこと」などが述べられました（写真—6～8）。

### 3 特別講演

初日の10月17日（月）には、「日本「再創造」～プラチナ社会の実現に向けて～」と題して、三菱総合研究所理事長、東京大学総長顧問の小宮山宏氏による特別講演が行われ、約400人が聴講しました。東日本大震災による甚大な被害からの復旧に留まることなく、東北復興を日本再生の嚆矢として、環境、少子高齢化問題等の世界的な「課題先進国」日本としての進むべき方向性や取るべき行動についてご紹介いただきました。中でもこの講演では、「日本はさまざまな問題を抱えているが、これまでの『普及して飽和してからの買い換え型の需要』と、『21世紀型の創造型需要』を同時に進めるべきである」との貴重なご示唆をいただきました（写真—9、10）。



写真—9 特別講演講師



写真—10 特別講演会場

# 4

## 受賞課題一覧

自由課題5部門（安全・安心、

環境、イノベーション、アカウントビリティ部門）では、各部門から最優秀賞1人と優秀賞2人が選出されました。

またポスターセッション部門では優秀賞3人が

表一 平成23年度国土技術研究会 表彰者一覧

安全・安心			
最優秀	河川ポンプ設備の状態監視技術に関する調査	独立行政法人土木研究所技術推進本部先端技術チーム	上野 仁士
優秀	原石山における電気探査比抵抗トモグラフィー探査の適用と評価	独立行政法人水資源機構総合技術センター	松尾 達也
優秀	東海・東南海・南海地震発生時に北陸管内港湾が担うべき役割と課題について—東日本大震災を事例として—	北陸地方整備局港湾空港部港湾物流企画室	河野 真典
暮らし・活力			
最優秀	自転車利用者の行動特性分析における新たな手法について	北海道開発局札幌開発建設部都市圏道路計画課	堀田 美和子
優秀	北部国道事務所管内における雑草対策の考え方について	内閣府沖縄総合事務局北部国道事務所管理第二課	川間 重一
優秀	滑走路および誘導路舗装の耐久性向上に関する研究	独立行政法人港湾空港技術研究所構造研究領域空港舗装研究チーム	前川 亮太
環境			
最優秀	景観に配慮した施工時の留意点について	九州地方整備局川内川河川事務所菱刈出張所	的場 孝文
優秀	十勝川中流域における河畔林管理手法について	北海道開発局帯広開発建設部治水課	河合 崇
優秀	利根川河口堰緩傾斜魚道の整備と効果について	関東地方整備局利根川下流河川事務所調査課	高口 強
イノベーション①			
最優秀	中間堰の堆砂抑制対策について	九州地方整備局遠賀川河川事務所管理課	田原 秀樹
優秀	～平成の大改修～「浜名大橋」橋梁補強について	中部地方整備局浜松河川国道事務所道路管理第二課	辻 英雄
優秀	鹿嶋海岸粗粒材養浜工～砂浜の安定化に向けた新たな取り組み～	茨城県土木部河川課	日向野 崇
イノベーション②			
最優秀	無線センサデバイスを活用した道路管理手法について	近畿地方整備局和歌山河川国道事務所工務第二課	小野 武
優秀	社会資本整備を対象としたカーボンフットプリント手法の開発、及び公共事業への導入によるCO <sub>2</sub> 排出量の削減の可能性について	国土技術政策総合研究所環境研究部道路環境研究室	神田 太郎
優秀	冬期路面管理の効率性向上に資する意思決定支援システムの開発について	独立行政法人土木研究所寒地土木研究所寒地交通チーム	徳永 ロベルト
アカウントビリティ			
最優秀	地域との合意形成で進めた川内川激特事業	九州地方整備局川内川河川事務所調査課	平岡 博志
優秀	一般国道241号における協働型インフラマネジメントの取組について	北海道開発局釧路開発建設部道路計画課	豊島 真生
優秀	出前講座（不動産取引の基礎知識）の取り組みについて	近畿地方整備局建設部建設産業課	堀田 徹也
ポスターセッション			
優秀	データ放送を利用した防災情報の提供について	和歌山県県土整備部河川・下水道局河川課	栗 将倫
優秀	公衆の通信網が被災した状況下でTEC-FORCE活動を支援するための新たな情報通信手段について	九州地方整備局企画部情報通信技術課	松尾 健二
優秀	地域活性化を支援する円山川自然再生～コウノトリの採餌環境に配慮した湿地整備～	近畿地方整備局豊岡河川国道事務所調査第一課	福嶋 彩





写真—11 受賞者集合写真

選出されました。受賞した各課題は技術面等で、今後の国土交通行政の推進に資するものとして高く評価されたものであり、各受賞課題は一覧のとおりです。

本研究会の締めくくりとして、佐藤技監からは、未曾有の災害に直面した時代において、国民の生命・財産を守るためにも技術力は非常に重要な力であり、より一層の技術研鑽が必要である旨、伝えられました（表—2，写真—11）。

## 5

### おわりに

今年は、東日本大震災，新潟・福島豪雨，台風12号，15号など災害の多い年であったこともあ

り，災害対応や防災関係をテーマとした課題が例年以上に多く見受けられました。今後，本研究会で得られた知見や取り組み等を各現場において積極的に活用することにより，国民のいのちを守るだけでなく，くらしの発展に貢献できる社会資本整備について，より一層努力していくことが重要だと考えています。

なお，国土技術研究会については，国土交通省のホームページにおいても紹介しています。

<http://www.mlit.go.jp/chosahokoku/giken/index.html>

国土技術研究会

検索